

2021年11月

秋号

—Vol.45—

Appointment and Web-based Communication Division

連携室 だより

脳卒中ホットラインについて
手術支援ロボット Da Vinci 導入について
新型コロナウイルス禍の透析治療について
口腔がん治療について
形成外科、最近の治療等について
PCR検査の導入について
旭川赤十字病院ホットライン
総合診療科のご案内

人事消息



新任医師

令和3年10月1日付
腎臓内科
末次 令奈



新任医師

令和3年10月1日付
消化器内科
岡田 哲弘



新任医師

令和3年10月1日付
脳神経外科
進藤 崇史



新任医師

令和3年10月1日付
麻酔科
鈴木 信太郎



新任医師

令和3年10月1日付
皮膚科
小松 麻衣

退職者

令和3年9月30日 腎臓内科 松元 慈
令和3年9月30日 消化器内科 後藤 聖樹
令和3年9月30日 麻酔科 根符 勇二
令和3年9月30日 皮膚科 野崎 尋意

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくり出す
2. 急性期医療を中心に診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関等との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンドオピニオンを受ける権利

旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

1. 私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
2. 私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
3. 私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
4. 私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
5. 私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

編集後記

減少傾向にあった新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が解除されましたが、旭川では再び感染の増加傾向にあります。当院では引き続き感染対策を徹底して行い、安心な医療を提供してまいります。

発行

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel. (0166) 22-8111 (代表) fax. (0166) 22-8287 (直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp

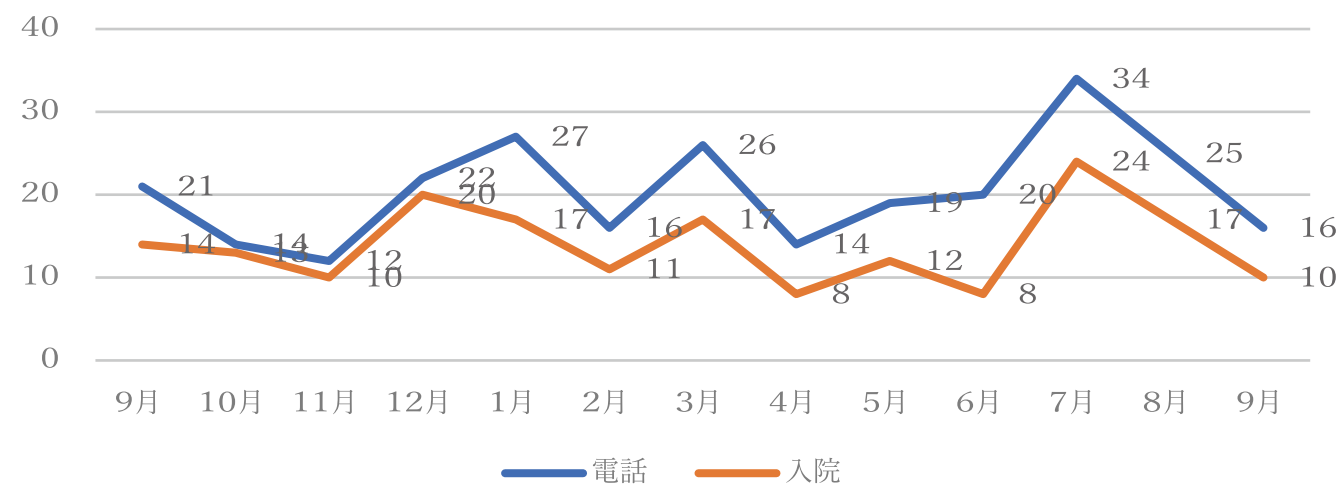
脳卒中ホットラインの利用状況について

副院長兼第一脳神経外科部長 瀧澤 克己

当院では2020年9月に脳卒中ホットラインを開設いたしました。開設当初の10月末にスマホの問題で10日間位ホットラインに繋がらないというトラブルが生じご迷惑をおかけいたしました。が、2021年9月末までに52の医療機関より計

154件のご利用をいただいております。このうち入院加療となった患者さんは96名(62.3%)で、くも膜下出血に対するクリッピング術、脳梗塞の主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法等の緊急手術を要した症例は21例でありました。

脳卒中ホットライン利用状況



また、富良野協会病院や留萌市立病院との間ではホットラインと同時に『Join』という医療用コミュニケーションツールを用いて画像情報を共有していて、適切なトリアージ、迅速な急性期治療に結び付けることができいております。脳卒中専門医の少ないなかで地域の救急医療に対応している両院からは、脳卒中ホットラインと『Join』を用いた当院との連携は非常に心強いとお言葉をいただいております。

一方、ホットラインより当院に紹介された後、大動脈解離の診断となり心臓血管外科で緊急手術を行った症例や耳鼻咽喉科や神経内科に入院となった症例などもあります。また、ホットラインを通じた患者相談のみという利用も24件ありました。このホットラインは脳卒中に限らず、すべての脳疾患、あるいは脳疾患がどうかよくわからないが

困っているという症例におきましても、365日24時間いつでも対応させていただきます。ホットラインでご依頼いただいた症例はお断りすることなく受け入れさせていただきますので、対応に迷った症例がありましたらお気軽にホットラインをご活用ください。

道北地方においては医療者不足の中、働き方改革の推進により、今後は益々救急医療の現場は厳しい状況になっていくことが予想されますが、地域医療支援病院として脳卒中ホットラインによる連携の強化を進めていきたいと考えております。また、『Join』を併用した連携は非常に有用ですので、地域の中核病院におかれましては『Join』の導入も併せてご検討いただけたらと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

当院に2021年12月よりDa Vinciが導入されます。 今後の泌尿器科・外科の展望について

本年12月に当院に手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入される運びとなりました。旭川市内においては、旭川医科大学、市立旭川病院、旭川厚生病院に続き4施設目となります。2012年に前立腺全摘に対して保険適用が認められてから約10年後の導入となります。現在ロボット支援下手術は、肺癌手術、食道癌手術、胃癌手術、直腸癌手術、脾臓手術、前立腺癌手術、腎臓手術、子宮体癌手術、仙骨腫固定術、腎盂形成術などに保険適用が認められ、外科手術においてはなくてはならないツールとなっています。さらに今後適応範囲が広がることが予想され、ロボット支援下手術はもはや標準治療へと移行しつつあります。

当院では機器導入後に約1ヶ月間のトレーニング

を行い、2022年2月頃より手術を開始する予定です。旭川市内では最後発の導入ですが、スタッフ一同しっかりと準備をし、今まで以上に安全で低侵襲な手術を提供するよう心がけていくつもりです。(文責：泌尿器科部長 堀田 裕)



この度、当院にて、手術支援ロボットDa Vinciが導入されることとなりましたので、そのご紹介をさせていただきます。

近年、さまざまな消化器外科手術において、従来の開腹手術から創の小さい内視鏡下低侵襲手術へと変換されつつあります。当院でも多くの手術において内視鏡下手術を施行してきました。

しかし、内視鏡下手術は直線鉗子による操作のため、手技の難易度が高く、また習得までに年単位の修練が必要となります。また直線鉗子による操作のため、高度進行癌等の症例によっては従来の開腹手術へ移行することもあります。

Da Vinciは高画質な3Dハイビジョンのもと、多関節機能により鉗子の自在で緻密な動きを可能にし、あたかも術者は小人となり、体の中に入って手術をしているイメージで手術をすることができます。また手振れを制御できるなど、人間の弱点を補うサポートも付加されています。このような機能により従来の開腹手術はもちろん内視鏡下手術を凌ぐ手術成績が報告されております。

現在Da Vinci導入にあたり、安全に導入できるよう、施設見学、資格取得、スタッフ教育などの準備を入念に行っており、2022年初頭にはこの手術を開始する予定であります。

外科・呼吸器外科では直腸癌、肺癌でDa Vinciを導入し、その後、他の疾患へ適宜適応を広げてまいります。

ロボット支援手術を希望される患者様がいらっしゃいましたら、ぜひとも当院へご紹介をお願い申し上げます。(文責：外科 山本 和幸)



平素より病診連携、病病連携に多大なるご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。2020年初頭より始まりましたCOVID-19の大流行にて生活スタイルが大きく変わったことと思います。現在執筆しているのは2021年の10月ですが、第5波の大流行がどういうわけか収まってきた状況です。まだまだ今後の見通しは不明な点が多く、実際に発行されているときにはどうなっているのか。明るい見通しが立っている世の中になっていることを切に願うばかりです。

さて、透析医療とCOVID-19のお話をいただいておりますが、特に血液透析の領域では大変切実な問題です。

まず、いわゆる「3密」の典型的な医療が血液透析です。週3回定期的に通院する必要がありますし、通院の際の送迎の中で感染リスクがあります。また、数十人が一つの治療室で一斉に血液透析をすることで「密」が発生しやすく、穿刺回収処置や患者ケアなどでスタッフが動き回ること感染を拡大するリスクが生じます。また、COVID-19陽性患者が別経路だとしても万が一発生した場合、スタッフは濃厚接触者として認定される可能性があり、透析施設運営にも大きな支障をきたす可能性があります。幸いなことに、当地域では透析施設の大規模クラスター発生は現在まで

無く、透析施設各位が日頃より感染予防対策にご努力・ご苦勞をされていることの結果と実感するとともに、深く感謝申し上げます。

いったん透析患者がCOVID-19に罹患しますと、一般母集団と比較して死亡率が高いことがわかっております。これは透析患者は多彩な基礎疾患を持っていたり栄養状態不良など全身状態が悪く、肺炎が重症化した場合に人工呼吸管理はもとよりレムデシビルなどの強い治療が難しい症例が多いことも一因として挙げられます。また、北海道は高齢者が多いこともあり、都道府県の中でも死亡率は非常に高い状況が知られております(東京都は10%程度であるのに対し北海道は44%以上)。新たな治療薬でこの状況を打開できる時が来るかもしれませんが、現状は透析施設と日常生活の中でのしっかりとした感染対策であとしばらく乗り切るしかないでしょう。当院ではICU個室対応や透析室個室透析の空調改善工事、コロナ病棟での個室血液透析可能な機器設置と配管工事を行い、関連施設での陽性透析患者が発生した場合の受け入れ準備を整えております。ただし、ベッド数には勿論限りがありますので、パンデミックが終息するまでは引き続きの感染対策でお互い協力していければ幸いです。(文責:腎臓内科部長 小林 広学)

●透析患者における累積の新型コロナウイルス感染者の登録数(2021年7月29日現在) 日本透析医学会ホームページより

時点	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15	7/22	7/29		
地区	患者数	感染者数	感染者数	感染者数	感染者数	感染者数	感染者数	転帰不明者 (入院中含)	死亡者数
北海道	142	156	158	158	158	158	171	14	76
東北	32	32	32	32	32	32	32	15	9
北関東	64	64	65	65	65	65	66	42	9
南関東(東京除く)	367	372	376	379	380	395	398	198	68
東京	469	472	474	480	487	491	506	246	58
甲信越・北陸	31	33	34	37	37	40	46	13	11
東海(愛知除く)	67	68	71	71	71	74	76	26	20
愛知	99	103	104	105	105	111	111	45	15
近畿(大阪除く)	152	152	153	153	153	154	156	86	21
大阪	207	209	215	215	216	216	218	80	26
中国	72	78	79	81	82	82	82	16	8
四国	14	14	14	14	14	14	14	8	2
九州・沖縄(福岡除く)	65	65	66	66	68	68	68	38	6
福岡	145	145	146	147	148	148	149	97	29
合計	1926	1963	1987	2003	2016	2048	2093	924	358

透析患者の新型コロナウイルス感染は致死率が一般より高いが、北海道はこれまで致死率が突出している。一般コロナ病棟に個人用RO装置(水浄化装置)を設置し、個人用透析機械を接続することで病棟で血液透析を施行することができるようになった。透析室への搬入に伴う感染リスクを抑えることができるようになった。

北海道の透析患者致死率
44.4%

●東京は11.4%



口腔がん治療について

口腔にできた「がん」の総称を「口腔がん」といいますが、その発生頻度は約1～2%と多くはないため、連携医療機関の先生方もあまり経験されることがない疾患かもしれません。近年、タレントの堀ちえみさんが舌癌の大手術をされ、口腔がんの存在がクローズアップされました。

口腔がんは部位により、最も頻度が多い「舌がん」をはじめ、「上下顎歯肉がん」、「頬粘膜がん」、「口底がん」、「口唇がん」、「硬口蓋がん」に分類され、その全体の5年生存率は約50～60%程度といわれています。しかし、他のがんと同様に早期に発見され、治療されれば、その治療成績は良好で、5年生存率は約90%ともいわれています。また術後の機能障害も少なく済みます。

治療方法としては、手術療法、抗がん剤治療による化学療法、放射線療法がありますが、がんの病期、患者さんの全身状態を考慮し、治療法を選択します。一般的には手術療法が中心となります。

当科は2020年の口腔がん手術は22件行っており、その中で進行がんで口腔内の欠損が大きいものに対して行う口腔再建手術は、当院脳神経外科の協力を得て4件行っており、良好な結果を得ています。

治療に関しては多くの場合は入院治療が必要になり、その期間も数週～数か月と様々です。また退院後もその失われた機能回復のために数か月を要

することもあります。そのためには早期発見、早期治療が重要なカギになります。

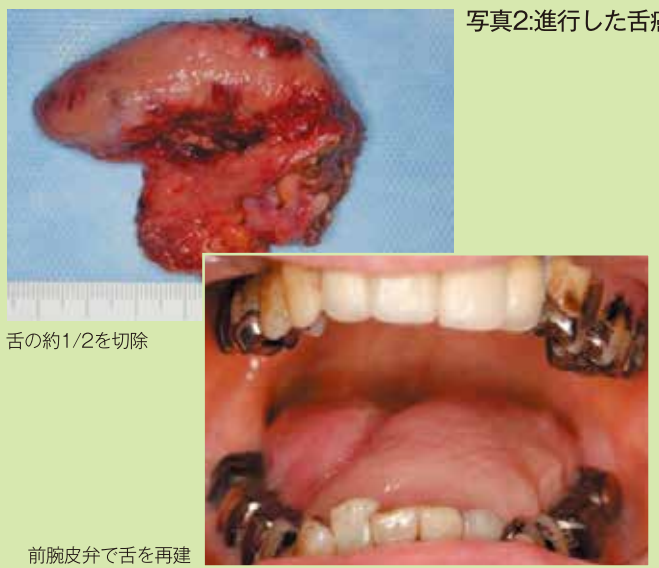
写真1の様に初期の舌がんは単純な切除で済み、機能障害もごくわずかと考えます。**写真2**の様に進行舌がんは広範な切除になり、再建術が必要になり少なくとも1か月の入院が必要になり、その後の機能回復のためにさらに数か月を要します。

早期発見のためには「口腔がん」の病状が知ることが重要で、主な症状としては口腔内の腫瘍、潰瘍、それに加え出血や疼痛、開口障害などです。初めに口腔内の変化でなく頸部のリンパ節の腫脹でわかることもあります。

口腔は内視鏡、X線を使用しなくても、まず実際に見て、触れることができる部位です。連携医療機関の先生方の日常診察での口腔内の観察、特に連携歯科医療機関の先生方の日常の歯科治療は、「口腔がん」の早期発見、治療に繋がると考えております。

通常口内炎、また口腔内の褥瘡等は原因を除去すれば約1～2週間で治癒傾向がみられると考えます。なかなか治癒傾向がみられない、または少しでも気になる所見があれば、当科に相談いただければと思います。

連携医療機関の先生方にはいつも大変お世話になっており感謝しております。また今後とも変わらぬようよろしくお願い申し上げます。(文責:歯科口腔外科部長 岡田 益彦)



旭川赤十字病院形成外科について、最近の治療など

当院形成外科は現在、日本形成外科学会認定施設であり、また最北端の日本熱傷学会認定施設でもあります。特に救急関連の広範囲熱傷においては培養表皮移植という再生医療も可能です。

治療する主な疾患は、難治性潰瘍や褥瘡、皮膚・軟部組織腫瘍(良性・悪性)と再建、眼瞼(まぶた)形態異常、手足の先天奇形、顔面骨折などです。特に眼瞼形態異常では御高齢の方の加齢性眼瞼下垂、先天的眼瞼下垂、内反症(逆さまつげ)、眼瞼腫瘍と機能的再建が増えてきています。手術においては患者様の症状に応じて様々な術式を取り入れ、体表は

とんど全ての機能的・審美的障害を改善べく治療に力を入れています。

さらに最近では、しみやシワなどに対する美容・抗加齢療法としてレーザーやドクターズコスメ(医療的化粧品)などの導入も行っています。当科の保険外治療は比較的施行しやすい医療費を設定しているため患者様に好評です。

当科では、病診連携により道北他都市より積極的に多くの患者様を御紹介いただいております。紹介状が無くても受診可能です。詳しくはホームページを御覧下さい。

(文責:形成外科部長 丹代 功)

眼瞼下垂症

余剰皮膚切除、眼瞼挙筋前転術、二重ライン作成



当院での導入レーザー

炭酸ガスレーザー:
隆起性皮膚病変(ほくろ、いぼ、老人性角化症など)

Qスイッチ・ルビーレーザー:
老人性色素斑、しみなど。



ドクターズコスメ(化粧品)

NAVISION DR▶

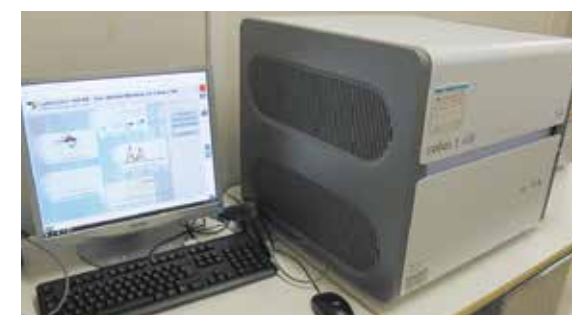
NAVISION DR(ナビジョンディーアール)の販売
資生堂と岩城製薬が医療機関向けに開発したスキンケアブランドです。

レーザーや術後のダウンタイムでのケアや美白、シワ、毛穴、クマ、ツヤなど多くの肌悩みに対応し美容施術効果を高めるものを揃えてあります。



PCR検査の導入について

当院のSARS-CoV-2における遺伝子検査はLAMP(loop-mediated isothermal amplification)法(栄研化学)を用いておりましたが、2021年5月11日よりPCR(polymerase chain reaction)検査(cobas z 480:Roche Diagnostics K.K.)に変更いたしました。検体中のウイルス遺伝子の定量が可能となりますのでウイルス量の比較や推移が評価でき、コピー数が推定できること等から信頼性がより一層高くなります。検体はLAMP法と同様に鼻咽頭ぬぐい液、唾液での検査が可能となっておりますが、唾液を検体とする場合は粘性を弱める溶解酵素処理が必要となり、鼻咽頭ぬぐい液の前処理より1ステップ多くなります。また、PCR検査で使用する試薬調整は全てがマニユ



アル操作であり、更に調整する試薬量が数μLという微量であるため、まさに全集中の呼吸(!)が必要です。前処理を終えた検体を機器に搭載してからは自動で温度サイクルが調整され、遺伝子の増幅を約75分かけて行い結果を報告します。

2021年10月1日からは保健所では対応できなくなった際の検体を僅かではありますが請け負う事とし、旭川市にも貢献できればと考えております。今後、新型コロナウイルス感染症への検査がどのような状況になるかは不明ですが、必要に応じて抗原定量検査、PCR検査を実施し臨床のニーズに応えられるよう努める所存です。

(文責:医療技術部 検査技師長 青木 晋爾)



旭川赤十字病院 総合診療科のご案内



何科に紹介
したら良いか
わからない…

総合的に
診てほしい…

【予約に関するお問い合わせ先】
〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号
旭川赤十字病院地域医療連携室 電話0166-22-8111(代表)

受付曜日 月曜日～金曜日(祝休日を除く) 受付時間 8時30分～15時00分